

## 【第4回なかしべつ協働の景観まちづくりミーティング開催報告】

◇日時：平成29年10月20日（金） 19：00～21：00

◇場所：中標津町役場 3階 301会議室

◇出席者：23名

テーマ：今年度の活動と来年度に向けた活動の方向性を考えましょう。

### ○計根別地区での活動

- ・計根別市街地の話ではないが、郡部の農家では中山間地域等直接支払制度の利用により廃屋処理等の環境整備が進んでいる。廃屋を残したまま引っ越した人に対し助成金を出して処理してもらっている。
- ・最近郡部では野生動物が復活してきている。シマリスやキツツキが増えている。町の山側に地域の公園があるが、連合町内会で公園の整備に手をかけたとき、あまり細かい枝を払わなかった。そうするとそこがシマリスやキツツキの生息地となってきている。ここ10年ほどでそう感じるようになった。キツツキは養老牛方面から降りてきて復活してきているし、エゾタヌキも見つけてびっくりした。自然が回復してきているという実感があるので、防風林や民有林の中に住む動植物に対して、もっと目を向けていく余裕が欲しい。
- ・計根別の環境整備については農業高校が中心となって活動してくれた。防災活動についても先生や生徒に参加してもらっている。
- ・けねべつの子どもたちを毎年作成している。幼稚園から高校までの作文や絵をまとめ、後半には計根別の子どもが関わる活動なども入れている。

### ○沿道景観調査

沿道景観調査の目的は、今後太陽光発電施設や携帯電話の電波塔などが新しく建てられる際に、それがどのように景観に影響を与えるか、またどのように景観に配慮できるかを検討する材料として利用できるような資料を作成するために行った。また、高さ3mに近づけて撮影することで、観光バスの目線から見える景観についても調査した。

調査を行うに当たって、初年度活動ということで、新しい事業の立ち上げに慣れており、様々な活動実績のあるE-Photo Clubに協力をお願いした。

調査ルートは範囲が広く、場所の特定が難しいので、グーグルマップを利用し位置を指定して撮影をした。本調査の対象ルートは北11号、北14号、28線、39線の4ルートで、1ルートにつき2人の計8人で調査を行った。撮影期間は9月23日から9月29日で、その期間中に各自撮影を行った。また、観光バスの目線の高さを確保するために、軽トラの荷台の上に足場を作るなど、各自撮影する際の工夫もしてもらった。

今回の調査結果については、これから分析する作業に入る予定であるが、成果として報告書の作成、また今年度のフォーラムでも報告をする予定。

今回の調査によって、調査に参加してくれた方が今回のミーティングにも参加してくれたことも成果の1つだと思う。

### 【調査協力者の感想】

- ・観光バスの目線の高さを確保して周りを見ると、普段から知っている道なのに今まで気づかなかったものや、木の生えている役割など、まだまだ中標津には知らないことがあるのだなと改めて勉強させてもらった。今回の調査では、試験的にドローンでも撮影を行った。軽トラでは2m半が限界だが、ドローンでは3mの高さが確保でき、また10mの位置でも試験的に撮影を行った。10mの高さではまた景観の開け方がかなり変わっていた。
- ・今回の調査で、観光バスの目線で撮るということで、普段見えないような景観が見えた。立っている木や林にも色々な種類があり、残地林や孤立木など農家が残したものであるとか、綺麗に残っている林や、防風林など、そういった景観にもそれぞれ意味があるのだなと思った。
- ・今回の調査では見えるものをすべてチェックシートに記入するという作業を行ったが非常に大変だった。その作業をすることで、電柱や看板など普段車で走っているときにはあまり気にしないようなものが見えたり、高いところに立つことで奥のほうが見えたりと非常に景観について勉強になりました。

### ○景観学習について

昨年度では計根別学園で実施し、格子状防風林の模型を作成することでその機能を理解してもらった。今年は東小学校での実施となるが、前回の反省を生かしながら格子状防風林の成り立ちや動画を見てもらい学習してもらおう予定である。また今回の実施に当たってはN-CANに協力をしてもらおう。実施日は10月31日。

### ○中標津町地域雇用創造協議会の活動

地域雇用創造協議会とは、雇用に結び付けるために様々な活動をしている協議会で、講座やセミナーなどを開催して、参加者のスキルアップを図って雇用に結びつけてもらっている。また、開陽台での乗馬や中標津あそびなどのイベントや、商品の開発提案などもしている。

今度講座として観光フォーラムを開催するというので、なかしべつ観光協会の会長である松實さんをお呼びして、中標津の観光は今後どのようにしていけばいいのかグループディスカッションをするフォーラムになっているので、ぜひ参加してください。

また、商品開発のほうでは、いわゆるご当地グルメのような感じで、鹿肉の活用をしている。チーズを作る際に出て廃棄されるホエイに鹿肉をつけてカツにするという

商品を 8 店舗で展開するなど、期間限定のモニター実施を行っている。鹿肉の今後の在り方についてアンケートをとって、これが今後の飲食店を盛り上げて雇用につなげてほしい。

開陽台での乗馬イベントは、開陽台は景色が綺麗だが遊ぶところがないということで、元々趣味で乗馬をされていた方がお客さんと呼んで実施したということで、初めてだったということでやった後に様々な課題が出てきた。ガイドや馬の配置や馬の事業者の関係など難しいと思うが、1 度実施したということで観光協会の方も興味を持たれていただいたり、町で前例ができたということで、そういった残ったものが非常に大事なものだと思う。今後また開陽台で乗馬イベントをしたいとなったときにかなりやりやすくなったと思う。また、観光協会が開陽台再生特別室というのがあり、会長も変わられて方向性を決めていくにあたってプラスになったのかなと思う。

中標津あそびでは、標津川を浄水場やゴミ処理場のあたりから、ペット霊園までの約 8 キロを下ってみました。モニター参加者も道外の方に来てもらい、標津川でそういう遊びができるかという調査を行いました。実際に川を下るととても野鳥が多く、ヤマセミなどがいた。町の中を歩いて川を下るのだが、橋以外に町の気配を感じられなかった。中標津町は川沿いに公園などの整備がされていないため、木が生い茂っており自然を感じられた。こういう川はあまりないという話で、とても貴重な体験で、今後に向けての新たな発見だった。元々標津の海までいくというプランもあったが、堰堤などがあるので実施はされなかったが、そこまではだれでも入ることができるということで、今後も活かしてほしい。

## ○今年度の活動の検討

### 色のワークショップについて

#### 【前回までの検討】

- ・子どもを交えたワークショップを開催したい。
- ・冬の景観ということで、冬の町歩きをしたい。
- ・フォーラムの日取りにもよるが、土日開催にしたい。
- ・土曜日（1 日目）は色の学習会または色を探すまち歩きを実施。
- ・日曜日（2 日目）には講師をお呼びしてフォーラムを開催。参加者によるまち歩きの報告発表、講師による基調講演、沿道景観調査、景観学習、計根別での取組の報告など。
- ・今年度は冬にまち歩きを実施するが、来年度には春か夏に町歩きを予定している。

#### 【意見交換】

- ・色の 3 属性やマンセル値は専門的なことだと思うが、これを大人に広げたら難しいワードが多くなるので、まずは子どもを対象にしてみても楽しみながらやればいいと思う。子どもは楽しみながらやればグイグイときてくれるが、固い話になっ

てしまうとまったく聞いてくれないということがある。

- 大人も子どもも一緒に先に学習会をしてからまち歩きをするというのを考えている。
- ほかの地域や観光地を見ると屋根を赤くだとか壁を白くだとかで統一させているが、農家の牛舎を緑にしましょうとか、屋根を赤くしましょうみたいに指定することになるのか。
- まずは色を探してみようという段階。
- 町中では町中の植物をテーマにするとか、景観でいけば市街地を高いところからまち並みを見て色を見つける、などポイントポイントで限られた、開陽台から見える景色、自然というように取り出せば色を見つけやすいと思う。川の色など。
- まち歩きをしているときに、この色はなんの色か、何番の色かというのはわかるものなのか。緑は緑でたくさんあるが、この緑は何番なのか、というように。
- 色のついたカードがあるので、それで見えていくことになると思う。印刷用や塗料用などがある。印刷用でやると見つけるのが大変と思う。
- 春なら桜が多いなど、季節によって色を見つけるなどもいいが、そもそもの木の名前などをある程度覚えてもらいたい。色だけでなくあの木のあの花がいいなどの知識が欲しい。
- 中標津では白樺並木が有名である他に、開陽では昔スモモを初めにいれていたり、武佐といえばハルニレといったものがあれば色のイメージにつながると思う。名前は忘れたが養老牛にしかない木もある。
- 色の種類を合わせるだけでなく、違う色でも組み合わせや彩度を決めることで相対的にすごく綺麗に見える。そういったことも勉強できたらいい。
- この色のワークショップで、中標津の色というのを決めるのではなく、あくまで勉強の段階。ただ将来的には中標津の色を決められたら決めたい。
- 色のワークショップで、建物の色を調べるのが現実的だと思う。たとえば保健所横の坂から見える建物の色や、病院の上から見たりなど、高いところから町の中がどう見えるのかなど、また計根別でドローンを飛ばすなど。建物の色がどんなものがあるのかわからないので、実際にそうやって見るのがいいと思う。
- まず現状どんな色なの、という調査がやはり先に必要だと思う。
- 昔の中標津街並みを描いている絵がある。坂からの油絵もある。安政四年に松浦武四郎が風景養老牛と言った。そういう版画や油絵などまち並みを描いたものも調査対象になるのではないか。

## フォーラムについて

- 開催日には2月3日、4日は冬祭りがあるので避けるが、その次の週は3連休になるので、その週も避けたほうがいい。なので、2月の17日、18日がいいと思う。

天候の心配があるので予備日は2月24日、25日とする。

- ・開催場所はお金のかからないコミュニティホールがいい。
- ・前回のフォーラムでは実行委員会形式で運営し、冊子を作成したが今回はどうするか。内容を新しくするのか。
- ・せっかく2回目をするのであれば内容を更新したい。農業高校など。
- ・沿道景観調査の報告では、グーグルマップの動画を作って場所をわかりやすくしたらいいと思う。

## ○来年度に向けた活動の方向性の検討

### 他都市の視察

すでに景観整備機構が機能している奈良、京都、大阪、東京、愛知に視察に行く。景観整備機構でお金を稼いで生活したいと考える方を優先的に連れていきたい。

- ・来年度以降どこかの時点で、コアなメンバーで具体的な話を進めていく時が来るかもしれないので、それまで色々と勉強をするなどが必要だと思う。
- ・視察ということで、まち歩きなどを意識するのであれば、北欧などにも視察に行ければいいと思う。中標津の色には北欧などが近いと思うので参考にしたい。冬のカナダなどもいい。
- ・視察はその成果を効果的に活かすためにも、来年度の前半に実施したい。実際に視察に行くことで、景観整備機構が具体的にどんな人が運営しているか、どのような仕事でお金儲けをしているか、景観整備機構がどうやって介入して景観がよくなっているかというのを、聞くことができればいいなと考えている。もちろん景観そのものも見る。

### 団体へのヒアリング

関係する団体に対し、機構が出来たらどんな協力ができるか、どんな事業ができるか、どんなアドバイスが互いにできるかということヒアリングする。

### 組織化に向けた環境整備

すぐに組織化に向けて動くわけではなく、視察に行き、また実際に組織化されている機構の方を呼び、町民や事業者で勉強会をしてから組織化について考える。

### 公営住宅のデザイン検討について

- ・来年から新しい公営住宅ができるが、その時に色やデザインなどの検討をこういった組織で進めるのが、やりやすい話だと思う。今までは設計事務所で全部決めていたと思うが、色の勉強をすることで意見を出せるようになる。
- ・今予定している公住については、タイトなスケジュールで進めており、平成29年度中に決めたいと考えている。

- ・あくまで、ためし段階として次の計画に対してお互いに相談できるような場、という位置づけがいいと思う。
- ・12 月末には設計を完成させる予定。木造の平屋で、屋根の色などで知恵を出し合うのが必要だというのはわかる。色だから後々でもいいかもしれないが、景観として動いている中でコンサルタントと共有できればいいと思う。
- ・今のところ準備会での検討は難しいが、時期的に景観審議会としてこの議題を取り上げることができるかもしれない。
- ・今回は間に合わないが、そういった検討を今後の景観整備機構の準備会でアドバイスなどが出来ればいいなと思う。

## ○その他

### 本会議の名前について

- ・この会議の名前をそろそろ決めたいがどうしたらいいか、今のところ「みんなのなかしべつプロジェクト」がいいと思っている。異論がなければこれに決定したい。
- ・異論なし

### フォーラム実行委員会について

- ・フォーラムの実行委員会は作ったほうがいいのかわかるかをどうするか。1 月 15 日ではフォーラムまで時間が足りない。
- ・次回の計根別で開催する 11 月 6 日で決めるのがいいと思う。
- ・担当は組織から代表して出してもらうか。
- ・大人数で話し合うと時間がかかるので、何人かの核の人がいて、フォーラムに向けて進んでもらうのがいいと思う。核になってもいいという方がいれば事務局に連絡をください。

(おわり)